

1月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回2月のてがたんは2月9日(土)で、テーマは「光の春を探そう」です。

市民スタッフのみなさま、次回の下見は2月3日(日)です。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→市民農園前
- 観察日時と天気：2018年1月12日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：23名(大人16名、高校生1名、中学生以下6名)
- 市民スタッフ：7名(蒲田知子、石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、弘貴さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録(下見を含む)

【*】は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

カモ科：マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ*/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：コサギ、アオサギ、ダイサギ*/クイナ科：クイナ(声)、オオバン/チドリ科：タゲリ*/シギ科：タシギ/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメの仲間*/ミサゴ科：ミサゴ*/タカ科：トビ、チュウヒ、ハイタカ、ノスリ*、/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ/ヒタキ科：アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ*、タヒバリ/アトリ科：カワラヒワ、シメ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カシラダカ
 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【魚類】モツゴまたはタモロコ(カワセミが捕食) 【哺乳類】アズマモグラ(巣穴)

【昆虫】

チョウ目：チャミノガ(まゆ)、メイガの仲間(幼虫、ヨシの茎の中)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ビワコカタカイガラモドキ/カマキリ目：オオカマキリまたはカマキリの死体

【花・実】

花 キク科：セイヨウタンポポ/シソ科：ホトケノザ/キンポウゲ科：タガラシ/アブラナ科：ミチタネツケバナ

実 ウルシ科：ハゼノキ/モクセイ科：トウネズミモチ/アサ科：ムクノキ、エノキ/バラ科：ピラカンサ/イネ科：ジュズダマ、イネ科の仲間/ガマ科：ヒメガマ/アカネ科：ヘクソカズラ/ハス科：ハス

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「もっと知りたいカモのこと」でした。親水広場から市民農園の前まで歩き、カルガモ、コガモ、ミコアイサなど6種のカモや、ハイタカやチュウヒなどの猛禽類を含む多くの冬鳥を観察することができました。



今月の案内人 蒲田知子さん



①遊歩道に落ちていたドバトの尾羽と風切羽



②ヨシ原の中の杭で休んでいたアオサギ



③ヨシ原で群れで採食していたオオジュリン



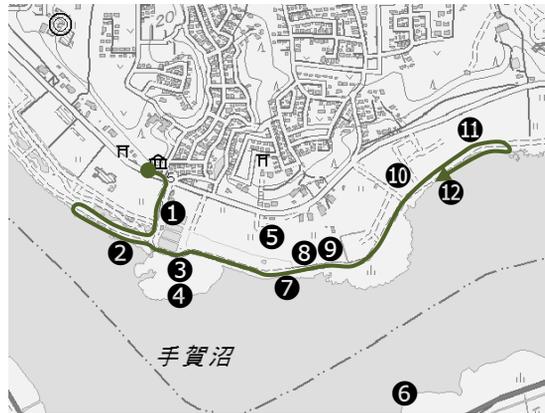
④ヨシの茎の中で越冬するビワコカタカイガラモドキ



⑤湿田で採食していたタシギ



⑥沼の対岸でカラスに追われていたチュウヒの雄。翼をV字に持ち上げて沼沿いを飛びながら餌を探す。



歩いたルートと観察した生き物



⑫観察会の最後に姿を現したミコアイサの雄成鳥。白い体と目の周りが黒いことからパンダガモとも呼ばれる。



⑦沼沿いのヨシ原の中で見られたコガモ



⑧対岸から流れ着いたハスの花托(かたく)



⑨遊歩道に落ちていたカマキリ類の腹部



⑩ハゼの実を食べに集まっていたツグミ



⑪エノキに止まるカシラダカ

今月の鳥 マガモ カモ目カモ科

マガモは大型のカモで、雄は緑色の頭と黄色い嘴が特徴です。雌は全身褐色でオレンジと黒のまだらの嘴をもっています。北半球に広く分布し、ほとんどのアヒルの原種となっている、人との関わりの深い鳥です。日本では北日本や標高の高い地域で繁殖しますが、手賀沼では10月ごろ渡来し、3月ごろまで見られる冬鳥です。主に下沼のハスの群落の中に渡来し、今年1月の調査ではおよそ500羽がカウントされています。マガモをはじめ、コガモやカルガモなどは水面採食カモと呼ばれ、潜らずに水面に浮いている植物の種子などをこし採って食べます。主に夜行性で、手賀沼沿いでは日没を過ぎたころに、田んぼなどに採食に出かけていくカモの「ヒュヒュヒュ…」という羽音を聞くことができます。



ハス群落の中で採食するマガモの雄。上にカールして巻き上がる中央尾羽もマガモのチャームポイントのひとつ。